

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりゆったり寄り添うケア」その人らしくを忘れず、全職員が安心した暮らしを支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に介護の現場や、ケース検討会の場などで話をしている。また理念を書いた携帯用カードを全員が持ち、理念の実践にむけて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者及びその家族にホームの理念を丁寧に説明し同意を得た上で入居していただいている。また、地域の方々には定期的にパンフレットを持参し、理念の説明をし、理解していただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の生活の中で、ゴミ捨てや散歩や買物などに掛け近隣の方々や挨拶やなじみのマーケットの店員さんと会話を楽しむことができている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・運営推進委員会で、地域の行事などの情報を得て夏祭りや運動会などに参加し交流に努めている。 ・ごみ捨ての月・木曜日に入居者の方といっしょに捨てに行き、回収後の清掃を当番で行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の様々な研修や会議で、認知症ケアの啓発に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で、自己評価、改善点の話し合いを行い、自身の振り返り・サービスの向上に努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事、取り組みを報告し、意見・要望などを聞き具体的な話し合いをし、理解と支援を得てサービスの向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、高齢福祉課にケアサービスの取り組みなど電話また、窓口でアドバイスいただいている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月の会議で、研修や会議出席後、報告会などで職員に伝達、また知識を学ぶよう関係書類をファイルしていつでも読めるよう情報開示している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、そのつど会議や勉強会で理解の周知を徹底し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>そのつど丁寧な説明をし、理解、納得をしていただき不安、不信感が残らないよう努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「望みの会」（入居者同士の話し合いの場）を通じて、日頃感じている不安、不満や意見を述べていただいている。その場で話したくない内容は直接スタッフに話したり、意見箱を利用している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・月ごとに日々の出来事は写真などを掲示している。・健康状態についてはそのつど電話や来所時に報告している。・きんもくせいだより（年4回）で、日々の出来事、職員の異動などお知らせしている。・金銭管理では、レシート綴りノートを毎月来所時にサインをしていただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「ご意見箱を設置」し、随時「ご意見箱カード」で意見を聞く場を設け、不満や苦情カードがあったときは、上司報告ミーティングを開きすみやかに改善に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の会議、個別面談など意見を聞くようにしている。普段からコミュニケーションを図るよう心がけ、話しやすい環境作りに努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じた対応ができるよう通常のシフト以外にパート職員2名を入れ、余裕を持って人員を確保している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わる時は、引継ぎ、申し送りを十分に行いスムーズに業務が移行できるよう配慮している。研修、勉強などの機会をなるべく多くもち意欲を維持できるようにしたり、休み希望など可能な限り配慮し、働きやすい職場を提供し離職を最低限に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は、研修委員を中心に2ヶ月に1回のペースで勉強会を実施。職員は年2回研修に参加し、月の会議で随時、報告意見交換を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修、活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員一人ひとりの表情、言語、接し方などを見守り、気分転換できるよう、リフレッシュ休暇を設けたり職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力、実務に応じ、資格習得の学びの支援をし、資格を活かし各自が向上心を持って働けるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にあたっては必ず事前に本人と会って、本人の状況を把握し、本人の趣味や好きな話題を提供し、信頼関係を築くよう努めている。また利用者によっては体験入居を利用いただいている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでは、何回か家族と連絡をとり、家族が不安なく話せる雰囲気を作り、話せることで、リラックスできるよう受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービス機関に問い合わせしたり、連携をもち柔軟な対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず本人と家族に見学していただき、次にスタッフが訪問し、更に関係を深めるようにしている。体験入居など、本人やまわりの方々に安心感をもって過ごしていただくなどしている。また入居の際には、ホームでの最初の食事を家族の方にいっしょに摂っていただいている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の特技や趣味を配慮して、料理の味付けや裁縫など、教えていただき協働しながら生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や日々の姿のスナップ写真を掲示板にはり、来所持に見ていただいたり、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努めている。誕生会や行事などの際は家族にも参加していただき、なるべく多く本人と同じ時間を共有していただくよう支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は家族が面会時などに、これまでの本人の様子を聴く機会を多くもつように心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの美容室へ定期的に通ったり、友人や知人への電話や手紙で連絡ができるようつながりが継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間に職員もいっしょに多くの会話を持つように心がけている。また入居者の会議を月1回実施して支援しあえるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居され施設に移られた方への面会に訪れて状態の把握に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中における会話「望みの会」での意見のから、一人ひとりの希望、意向を探っている。常に表情などに注意し、不安を感じているような時は訪室してゆっくり話せる時間をもつよう心掛けている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語り、家族の面会時に話を伺うなど、把握に努めている。またカンファレンスなどで職員も情報の共有に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を通じて、生活リズムや心身状態の変化の把握に努めている。またチェックシートを作成し、本人の有する力、現状を把握できるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「その人らしく」を忘れず、入居者が自分らしく暮らせるよう本人、家族の意向を反映させるようアセスメントし、カンファレンスを行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が起きた時は、そのつど話し合い新たな計画を作成する。常時、状態の変化やニーズ要望に応じ見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況（水分量、排泄の有無、アクティビ）と日々の記録チェックシートの3種類を個別に用意している。日々の様子や気づき、見直しなど情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にクリニックがあり、夜間もドクターと連絡がとれる体制なので、日々の健康管理や状態の急変時にも対応できる。家族にも面会の時に近況報告を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議で民生委員から地域の交流が保てるような情報を聞き地域の行事に参加している。 ・年2回消防署員の指導で避難訓練を実施している。 ・文化会館でミュージカルやコンサートに希望者は参加楽しんでいる ・ご本人が希望時、図書館に行く。など地域資源を活用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族、本人の意向により、可能な範囲で他事業者との連携を図り、サービスを受け入れている。連絡ノートを作成し、心身の状況の把握、共有に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加され、情報交換など協力関係ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他利用者の疾病に応じて、利用者のかかりつけ医など、複数の医療機関との連携を図っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内クリニックの医師に適切な指示や助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ法人内の看護職員がおり、常に利用者の健康管理や変化に応じた支援を行なえるように日頃から関係を築いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、頻回に見舞い、利用者の不安を和らげている。また家族と話し合いながら速やかに状況の伝達を蜜にするよう努めている。その情報を共に利用者から早期に退院できるよう情報交換などに努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師を交えて、状態の変化があるごとに、話し合いを支援し、全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアについては、医師、職員と話し合いをして、「できる」「できない」ことを見極め取組んでいる。ADL低下防止、意欲を持ち続け、生活のリズムを大切に支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	生活環境、援助内容などの情報提供し、新しい住 まいでも、これまでの暮らしが維持できるよう連 携を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応など、常にプライバ シーに配慮し、日々の介護記録を書く時などはイ ニシャルなどを使い、職員だけがわかるようにし ている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	入居者に合わせた、説明、声かけを行う。口頭だ けではなく、メモ書きしてわかり易く行う。また 選択肢の多いカードなどを提示し、選んでいただ くよう努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	買物や散歩やレクなど、一人ひとりの状態や意向 に配慮し対応している。一日の流れは決まってい ても、利用者の希望で変えるよう柔軟に対応して いる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	いっしょに鏡を見ながら、身だしなみを整えたり 洋服を選んでいただく。理髪店も、なじみの店や 希望があれば出張カットに依頼するなど本人に応 じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に食材を選び、献立を考えたり準備を行う。調理、盛り付け、片付けもいっしょに行い、職員もいっしょに食事をする。入居者から話題を引き出し、楽しい食事の雰囲気作りに努めている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	いっしょに買物に行き、おやつなど好みのものを選んでいただく。お酒はドクターの指示のもと決められた量を守っていれば好きな種類を本人が選べるよう対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人が行きたい時トイレに行けるよう本人の生活リズムに添った支援を心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の決まりはなく希望を聞き対応している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。一人ひとりの希望、体調、表情などを考慮してゆっくり休息とれるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味を楽しんだり、外出、買物、外食、ドライブに出掛けたりそれぞれが気晴らしができるよう支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて、金銭管理は家族と話し合っている。外出時は財布を持っていただき、ご本人に支払っていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、入居者と共に、買物や散歩に出掛けている。希望があれば地域の理髪店や食事にいけるよう調整している。週末は車でドライブに出掛けられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の誕生日に、担当職員が家族と共に希望の場所にでかける。遠足は水族館に出掛けたり職員と共に外出、外食の機会を作り支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる。また年賀状や暑中見舞いのはがきを出すための支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を限定せず、いつでも来られるよう配慮している。入居者の友人やなじみの方とも積極的に関わり気軽に来所しやすい雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を決めている。職員が研修や勉強会を通じて知識の習得や理解をし、身体拘束のないケアを実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が入居者を見守りやすい位置にいて、入居者の様子を察知しすぐに対応できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、洗剤などの個数の確認を毎日行い、安全、清潔に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、想定される事故を職員で話し合っている。日々のヒヤリハットの作成を行い、職員同士の共通認識再発防止に努めている。事故発生時には、速やかに報告書を作成し、カンファレンスを開き再発防止に努めている。発生時は家族に報告する。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を実施し、知識の習得に努めている。また緊急時対応については、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、第2木曜日に避難訓練を定期的実施している。地域住民の協力体制は運営推進会議で協力を呼びかけ働きかけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ヒヤリハット、事故など、随時、家族へ報告説明をしその都度、起こり得るリスクなどについても家族に充分説明をし理解していただいている。全職員は対応策を、そのつど話し合っ、再発防止に努めている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	記録だけでなく、日々の入居者の表情、体調確認に気を配っている。変化や異変を発見した場合にはすみやかに申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また普段と違う様子がある場合はバイタルチェックを行ないドクター、ナースに相談して受診を行っている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は、本人に手渡し飲み込むまで傍で見守る。特に薬の変更時は症状の変化など注意深く観察し記録に記す。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中の適度の水分摂取、乳製品、野菜や繊維質の食材を使ったり、散歩、家事活動などの運動を自然に行い、自然排便に心がけている。毎日の排便の有無の確認をする。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声かけ誘導介助を行なっている。夜間は、義歯洗浄剤を使用し、清潔に努めている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日の食事の献立などは、管理栄養士の献立により栄養のバランスに配慮している。食事、水分量は、毎食摂取量を記録し、一日を通して確保できたか確認している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症について、マニュアルを作成し、流行する季節毎に全職員が研修や会議で知識を習得し、予防、対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾の消毒、週1回まな板や食器漂白を行っている。食材は、毎日買物に行き、新鮮な食材で調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、花を生けたり玄関先にプランターを置いたりして、季節感が感じられる空間を心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、いつでも心地よく使用できるよう毎日清潔感を心がけている。またホールに写真、作品、季節の花を飾ったり、季節感のある空間作りに努め明るい雰囲気作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファ、和室などで仲のよい入居者同士が話したり、趣味の時間が過ごせるよう、配慮している。また動物が好きな入居者が庭で餌をあげ小鳥が来るのを楽しみにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いたり、好きなものを飾っている。行事の日々の写真を部屋にかざったり、季節の花を飾り、個々の居心地のよい雰囲気大切にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、掃除の時に窓を開け空気の入換えをしている。また季節によって、冷暖房で温度調整し、個々の体温調整に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活をしていただけるようお年寄りに合わせた高さの手すりをつけるなど利用者の状態に合わせ、居住環境が常に安全か確認している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を把握し、混乱や失敗を防ぐため必要なもの、なじみのものを工夫し、状況に合わせて環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、育てた果実でジャムを作ったり、畑を作り、季節ややすらぎが感じられるようにしている。また庭のテーブルで、お茶を飲みリラックスできるような雰囲気を心がけている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしさを大切に「ゆっくり、ゆったり、心地よく一人一人に寄り添う介護」をめざして、ご自分の出来ることはなるべくして頂き、個人個人に残された能力を引き出すような介護を実践しております。具体的に、毎月入居者の方のお話し合い「望みの会」を行ない、外出や買い物など、色々な思いを言葉にして頂き実現実行しております。午前は、ホーム周辺に散歩に出掛けたり、オリジナル体操などの運動を行なっております。午後は、趣味の時間と個々の時間など、ゆったり過ごして頂いております。常に五感が感じられる空間作り、安心して生活できる環境作りを考え、スタッフ一同認知症介護を実践しております。